



平成30年 7月臨時会
平成30年 9月定例会



議会だより No.50

ケーブルテレビでは議会の生放送・再放送に加え、議会の紹介コーナーも

“脳のちょいトレ..”前に

「ジャンケンゲーム」でウォーミングアップ！



「脳のちょいトレ教室」開始前の一コマ(9月25日、あつたかふれあいセンターにしきの広場にて)

2P 平成29年度一般会計決算 127億2千万円 過去最大に

9P 平成29年度決算を認定

10P 庁舎建設 総額42億970万円

13P 町政を問う！ 9議員が一般質問

平成30年 9月定例会

9月7日から19日まで開催。平成29年度決算、平成30年度補正予算、条例の一部改正などの20議案が提出され、全議案が可決・認定された。

また、一般質問では9議員が町政への質問・提案をした。

平成29年度 会計別決算の概要

会計名	歳入総額	歳出総額	差引残額
一般会計	128億8700万円	127億2373万円	1億6327万円
住宅新築資金等貸付事業	659万円	333万円	326万円
宮川奨学資金	2403万円	2086万円	317万円
給与等集中処理	15億1289万円	15億1289万円	0万円
国民健康保険事業	21億8188万円	21億9979万円	△1791万円
介護保険事業	16億8708万円	16億2136万円	6572万円
介護サービス事業	1502万円	1502万円	0万円
国民健康保険直診	4653万円	4597万円	56万円
後期高齢者医療保険事業	2億166万円	1億8040万円	2126万円
農業集落排水事業	3833万円	3772万円	61万円
漁業集落排水事業	497万円	495万円	2万円
情報センター事業	2億6010万円	2億6008万円	2万円
水道事業	2億2876万円	2億3017万円	△141万円
重複分を除く純合計決算	127億2241万円	125億5268万円	1億6973万円

目次

平成29年度決算
127億円余過去最大に

国保特別会計

2億4千万円の繰入金

平成30年度一般会計補正予算
4千万円余を追加補正

平成29年度決算を認定

総額42億970万円

10P
府舎建設

12P
入野小学校

13P
町政を問う!
9議員が一般質問

22P
現地に行きました
地区要望箇所を現地視察

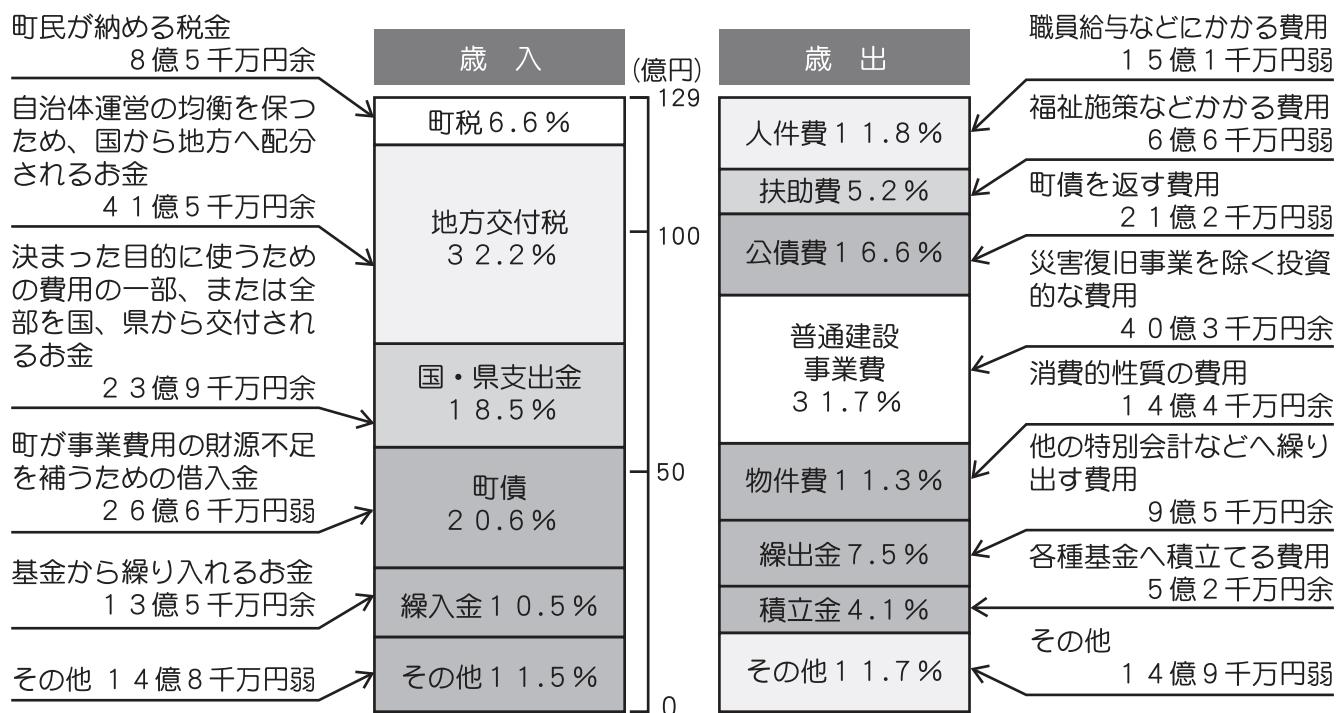
裏表紙
住民の声
不破原地区を訪ねました

平成29年度一般会計決算

11.9%増 127億2千万円

庁舎、保育所移転などで 過去最大の決算額に

平成29年度一般会計決算の概要



● 平成29年度一般会計決算の認定
○歳入決算額 128億8700万円
○歳出決算額 127億2372万円
○歳入決算額 対前年度比、12億3193万円、10・6%の増。
○歳出決算額 対前年度比、13億5687万円、11・9%の増。
合併以降で最大の平成28年度決算額を上回る額となつた。
歳入から歳出を差し引いた形式収支は1億6327万円となり、この内翌年度に繰り越す事業の財源は5704万円。
また、実質収支額は1億622万円で、この額から基金への繰入額は6千万円とし、基金への繰入額を差し引いた純然たる翌年度への繰越額は4622万円となつた。
内容的には、昨年に引き続き、健全な財政運営が図られたものとなつたが、将来への負担となる町債の借り入れは、昨年度よりも減額となるも大きな額となり、今後もより一層、慎重な財政運営が求められる。

普通会計の平成29年度末の積立基金残高は52億1421万円、地方債残高は140億2214万円で、この内 地方債残高は近年大型事業に取り組んできたことにより上昇傾向にあるが、健全化判断比率の状況は、実質公債比率が5・4%、将来負担比率も繰上償還によりマイナス10・9パーセントとなつていい。

歳出

義務的経費は、扶助費が国の施策の年金生活者等支援臨時福祉給付金により、公債費は緊急防災・減災事業債の据置期間の終了などにより増に。

投資的経費は、庁舎建設事業の本体工事の開始や、それに伴う都市防災推進事業、都市再生計画事業の実施、さらに佐賀市立保育所移転事業などによ

り、大幅な増となつた。
その他の経費は、各種

事業の増加に伴う臨時職員賃金や委託料の増、ふるさと納税に伴う返礼品等の関連費用の増

高校生サミット運営経費の増があつたものの、地域商品券発行委員会補助金や積立金のうち、減債基金や建設推進基金、財政支援事業基金が前年度より減となつていて。

伊与喜地区に新築移転した新佐賀保育所（上）と、さまざまな利活用が検討中の旧佐賀保育所（右）



米原バス運行委託 今後も西南交通

■米原生活バス運行委託
料 128万円

794万円

Q 宮地 葉子議員
米原のバス運行委託の内容と今後の取組みは。

A 西村企画調整室長
米原生活バス運行は、西

南交通に委託している。

利用状況は、米原単独と

いうことではないが、町内の枝線としては年間の輸

送人員が4853人の方

が利用されており、この枝線については、引き続き継続していく。

利用状況は、米原単独と

いうことではないが、町内の枝線としては年間の輸送人員が4853人の方

が利用されており、この枝

線については、引き続き継

続していく。

利用状況は、米原単独と

いうことではないが、町内の枝線としては年間の輸

送人員が4853人の方

が利用されており、この枝

線については、引き続き継

続していく。

利用状況は、米原単独と

平成29年度特別会計決算の認定



特定健康診断受診中の一コマ

国保事業へ2億4千万円の繰入金

今年度も繰上充用金で歳入不足を補う

加入者数は、平成27年度4030人、平成28年度3855人、平成29年度は3652人と年々減少。一人当たりの費用額は、平成27年度が39万2千円、平成28年度は39万78円と減少していたが、平成29年度は41万4千円と増加した。

・**繰入金**
○歳出総額
21億9979万円
前年度比844万円の減。
・**保険料**
16億8708万円
前年度比1億3247万円の減。
歳入不足額1791万円で、平成30年度より歳入繰上充用金で補つた。

●**国民健康保険事業**
加入者数は、平成27年度4030人、平成28年度3855人、平成29年度は3652人と年々減少。一人当たりの費用額は、平成27年度が39万2千円、平成28年度は39万78円と減少していたが、平成29年度は41万4千円と増加した。

○歳入総額
21億8188万円
不能欠損額は624万円、収入未済額5531万円、前年度比919万円の減。

○歳入総額

12億9750万円

・**保険給付費**
前年度比2500万円の増。
認定(全員)

・**保険給付費**
前年度比589万円の増。
認定(全員)

・**後期高齢者医療保険料**
前年度比187人増。
認定(全員)

・**宮川奨学資金**
前年度比143万円の増。
認定(全員)

○歳出総額
16億2136万円
差引残額は6572万円。
・**一般会計繰入金**
前年度比589万円の増。
認定(全員)

・**介護サービス事業**
前年度比8575人で、前年度より187人増。
認定(全員)

・**後期高齢者医療広域連合納付金**
前年度より618万円の減。
認定(全員)

・**奨学資金貸付金**
前年度より618万円の減。
認定(全員)

・**一般会計繰入金**
2億4071万円

●**後期高齢者医療保険事業**
本事業は、平成20年度から始まつた75歳以上の方々の医療保険を運営するもの。

●**住宅新築資金等貸付事業**
貸付事業が終了しており、新規貸付がないため、現在は貸付金の回収のみ。

り、宿泊施設や道の駅などの町内観光関連施設でキヤンセルが多数発生し、経営的に打撃を受けている状態となっている。

このため、観光消費額の回復に向け、観光誘客の促進を図るため、商品券を活用したキャンペークを実施するためのもの。

N^o
KUROSHIO SHOPPING CARD
¥1,000
くろしお町商品券

活用される「くろしお町商品券」

特別会計補正予算

条例の一部改正

平成29年度決算に伴う追加補正3件

住民税などの非課税措置緩和 たばこ税率引上げ、加熱式たばこの追加

可決(全員)	● 平成30年度国民健康保険事業補正予算	歳入歳出総額を101億7339万円とするもの。内容は、法人町民税の還付によるもの。	400万円を追加し、歳入歳出総額を101億となる。
可決(全員)	● 平成30年度介護保険事業補正予算	当初予算で200万円計上するも、現在200万円ほどの不足が生じており、今後も還付が見込まれるため、400万円の追加補正を行うもの。	6828万円を追加し、歳入歳出総額を17億2701万円とするもの。
可決(全員)	● 平成30年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算	歳入歳出総額を19億3312万円とするもの。	1675万円を追加し、歳入歳出総額を2億1780万円とするもの。
可決(全員)	● 税条例等の一部改正	概要は、平成29年度の国民健康保険療養給付費等負担金、及び療養給付費等交付金の額が確定したことにより返還金の追加補正を行うもの。	31日から施行され、住民税の見直しに伴う所要の規定を改正するとともに、たばこ税の見直しによる税率の引上げ、及び加熱式たばこの課税について、税条例の一部を改正するもの。



胃がん検診車による検診も

可決(全員)	○ 内容(抜粋) 【個人住民税】	・障がい者、未成年者、寡婦の方の非課税措置の所要件を125万円から135万円に引き上げ。 ・均等割の非課税限度額を、現行の範囲に10万円を加算。
可決(全員)	○ 内容(抜粋) 【個人住民税】	・所得控除について、基礎控除額ならびに調整控除額の所要要件として2500万円以下を創設。



加熱式タバコの一例

● 平成30年度一般会計補正予算	法人町民税の還付により 法人町民税の還付を
【補正第3号】	

活用される「くろしお町商品券」

● 平成30年度国民健康保険事業補正予算

● 平成30年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算

● 税条例等の一部改正

【個人住民税】
・所得割の非課税の範囲等を、現行の範囲に10万円を加算。

【たばこ税】

・製造たばこの区分を創設し新たに加熱式たばこを追加。

・たばこ税の税率を、千本につき、現行5262円を5692円に引き上げ。

可決(全員)

■高性能林業機械等整備

事業 918万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。



かつお選別機



ワインチ付きグラップル

平成29年度特別会計決算の認定

平成30年度一般会計補正予算

■観光被害回復業務委託

120万円

先の西日本豪雨の影響で観光業にキャンセルなどで1200万円の影響が出ていることから、町

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●住宅新築資金等貸付事業

●後期高齢者医療保険事業

●地域共生社会包括的支援体制構築事業

2831万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●貸付金の徴収と起債の償還業務のみです。

●医療費適正化等推進事業

274万円

起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●国民健康保険事業

1245万円(人件費)

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●水道事業

1188万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●漁業生産事業維持向上事業

1794万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●国民健康保険直診

8936万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●高知農業確立総合支援事業

50万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●第38回全国豊かな海づくり大会サテライト

99万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●介護保険事業特別会計補正予算

281万円

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●後期高齢者医療事業特別会計補正予算

10月27日～29日に高知県で開催される大会に合わせてイベントを行うものです。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助したものです。

●国民健康保険事業特別会計補正予算

10月27日～29日に高知県で開催される大会に合わせてイベントを行うものです。

●後期高齢者医療事業特別会計補正予算

前記3予算は29年度決算確定に伴う補正です。



あつたかふれあいセンターにしきの広場

■観光基本構想策定業務

500万円

黒潮町の今後の観光施策を作成します。



かつお選別機



ワインチ付きグラップル

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助のため、起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助のため、起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助のため、起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助のため、起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

幡東森林組合が購入した高性能機械ワインチ付グラップルに60%の補助のため、起債残高は227万円で償還は平成33年度で終了予定です。

臨時会

7月27日

工事請負契約

校舎内外の改修と エアコン設置

●入野小学校改修工事(建築主体)

工事概要は、外壁とひさしの浮き部分やひび割れの補修、特別教室棟屋上の防水。

内部工事として、トイレの洋式化、長尺シート貼による床の改修や、普通教室と特別支援教室へのエアコンの設置。

また、遊具の改修として、ジャングルジムとシーソーを更新する。

○契約金額 6909万円

○契約先 佐賀2988
番地、(株)山本建設株式会社

○工期 平成30年7月30日から平成31年2月28日

可決全員

廊下もピッカピカに



各教室に設置されたクーラー



洋式化されたトイレ



外まわりの改修が済み、
ピッカピカになった海側校舎の海側面

児童の授業を第一に、学校が休みの日を「作業日」として外回りの工事が進みます（10月6日（土））



町政を問う!!

9議員が質問・提案を



おくもと てつや 議員

教育 啓発

小中連携し取り組んでいく
学力テストどう活かす

いては2・4ポイント上
回る結果となつた。

中学校は0・6ポイント
トから2・6ポイント全

国平均を上回つたが、情
報の傾向、読み取つてデ
ータを活用する力が弱い
という結果だ。

そのためには、

①授業の方向性を形式的
理解から意味的理 解への
転換を図つて、未知の状
況で使える知識、技能を
習得させる。

②特徴や傾向を読み取り、
分類、整理し問題解決に
生かす。

③単元計画の見直し、結
果を求める授業から結果
を求めて解釈する授業自
分の考えを表現するだけ
ではなく、他者の考え方や学
んだ知識を基に再構築し
ていく。

会・研究所の分析と、今
後の課題について問う。
また、家庭との連携を
どう進めていくか。

答 畠地 教育長

知識に関するA問題と、
活用に関するB問題、そ
して今年度は3年に一回
の理科も実施された。
小学校については、国
語、算数とも0・4ポイ
ントから1・1ポイント全国
平均を下回り、理科につ
くこれらを小中連携し取

部落差別

実態調査は
まだ
いつから

検討段階



大方中学校の玄関付近

部落差別

実態調査は
まだ
いつから

検討段階

いての調査に関する照会
が文書で届いている。
その内容は「調査の内
容や手法等を検討してい
るが、地方公共団体にお
いて過去に実施した同和
問題についての調査の資
料を参考として収集した
いと考えている。」

平成19年度以降実施し
た調査の有無、及び該當
する調査があれば、報告
してほしい」とのことだ
ったので、報告している。

今後も、高知地方法務
局に状況についての問い合わせを行ふ予定なので、
もうしばらく待つて頂き
たい。

住宅に関するても、町民
館と一緒に部落の実態調
査について、現在協議を
進めている。また、今後も、
他の事柄でも、町民
館と一緒に実施していく
ことになる。

が制定され、約2年が過
ぎようとしているが、部
落の実態調査はどうなっ
ているか。

放課後子ども教室では、
子どもの遊びの場の時間
の確保などお願いしてい
ます。

第6条に規定する部落
差別の実態に係る調査に
関してのことだと思うが、

関してのことだと思うが、
・公立高校の地域人材育
成について

【その他の質問】

町村人権擁護チーム担当
課について、同和問題につ
く

子供たちの学びの場の時間
の確保などお願いしてい
ます。

法務省人権擁護局から市

町村人権擁護チーム担当
課について、同和問題につ
く

教育環境

小中学校のエアコン設置は

普通教室は31年度までに



ふじもと 岩義 議員

童が7名いた。

小中学校の普通教室は合計67室。小学校53室中

5室で9・4%、中学校は14室全て設置済み。

平成30年度中に拳ノ川小、伊与喜小、入野小の計

25室に設置。残りは平成31年度に設置する計画。

また、特別教室については前向きに検討する。

いる体育館も被災者の命を守るために冷風扇などの設置ができないか。

今年の夏、特に今年の夏は黒潮町でも猛暑が続いた。児童生徒に熱中症等の被害はなかったか。

文部科学省も教室にエアコンの設置を呼びかけているが小中学校の現状と音楽室、理科室などの特別教室への設置計画は。

答 德廣 情報防災課長

答 藤本 教育次長

各学校においては常に健康観察を行っている。その結果、救急搬送までは至らないが熱中症を疑い保健室等で休ませた児

進めてきたが、暑さ対策はできていなかった。

今後、避難所で快適に過ごしていくけるか、避難所整備の中を考えたい。

総合戦略

中山間地域の機能確保は

公益的施設は負担減考える

問 本年6月に公表された「黒潮町総合戦略」によると、「現在の農業者に支

等を行う農業者等に対し交付金を交付し、経営の持続・安定化に取り組む」とあるが具体的にどうす

ことだが負担率25%～50%では中山間は寂れる一
方だが、対策は。

中山間地域における農地の多面的機能を維持、確保していくために、集落協定に基づく農業生産活動等を行う集落等に支援する中山間地域等直接支払交付金を引き続き活用することにより、農業経営の維持、安定を図っていく。

しかし、残土処理場が近くにないため、少ない予算で苦慮していると聞く。町で残土処理場を確保すべきではないか。

答 大西 町長

答 森田 建設課長

答 藤本 教育次長

各学校においては常に健康観察を行っている。その結果、救急搬送までは至らないが熱中症を疑い保健室等で休ませた児

進めてきたが、暑さ対策はできていなかった。

今後、避難所で快適に過ごしていくけるか、避難所整備の中を考えたい。

防災対策

河川土砂対策と残土処理場

確保に努める



入野小学校に設置されたエアコン

新産業の育成には

外商戦略と生産性向上を



なかじま いちろう
中島 一郎 議員

問 第三セクターである缶詰製作工場と町内の事業所の商品を組み合わせて商品開発することで新たな需要を生み、産業全体の活性化を目指すことが新産業の育成につながるものとなつていて、もう少し幅広く町内事業所に目を向けて、現状把握を行い、存在価値を高める振興策を戦略として取り組むことはできな

いから。

缶詰製作工場と町内の事業所の商品を組み合わせて商品開発することで新たな需要を生み、産業全体の活性化を目指すことが新産業の育成につながるものとなつていて、もう少し幅広く町内事業所に目を向けて、現状把握を行い、存在価値を高める振興策を戦略として取り組むことはできな

答 門田 産業推進室長

単なる防災商品としての缶詰ではなく、町の農水産物や黒糖、天日塩の加工品など、地域産品を活用した商品開発することで、産業全体の活性化につなげていくことになる。

また、大量取引や高度な品質管理といった業務遂行能力にたけ、組織の中核を担える人材の外部からの獲得も視野に入れ、外商戦略や生产能力の強化を図つて行く。

佐賀地区の津波避難タワーの場合には、本体部分は想定している水圧等に耐える安全性が担保されているとのことだか、階段やスロープなどにつけられており、結果として不安視されているが、この対処は。

防災対策

津波避難タワーへの対処は

安全な設備を目指す

計によつて構造上では浸水深の3倍の静水圧を計算している。しかし、階段やスロープなどの付帯構造物については非構造部材であり、地震、津波に対する基準はない。

このために津波や漂流

物の衝突により、付帯設

備が破損する可能性も考

えられる。破損した場合

の対応策としては、避難

一へすぐに逃げて、その

しかし住民からは、地震

が発生して津波避難タワー

へすぐには逃げて、その

後に津波が收まり避難タ

ワーから降りることがで

きるかどうか心配する声

がよく聞かれる。

佐賀地区の津波避難タ

ワーの場合は、本体部

分は想定している水圧等

に耐える安全性が担保さ

れており、結果として不

安視されているが、この対

処は。

郷土芸能 黒潮音頭(仮称)の制作は

関係団体の意見を聞く

黒潮音頭(仮称)の制作は

答 藤本 教育次長

音頭は盆踊りや祭りなど多くの人が集い、歌につられて踊るため、地域

として、関係団体の意見も聞き検討する。

【その他の質問】

・土地、森林の管理について

すべてのタワーに共通する構造設計の考え方と

して、建築基準法に基づいた設計を行い、これに

新たに黒潮音頭(仮称)を製作する考えは。

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

ているが総合的な判断

がなされ、それを踏まえて

・くろ鉄、入野駅横の花壇等の整備について

これまでの経験から、

地域の連帯感や郷土への愛着

が高まることになる。

しかし、近年は少子化

によって伝承文化の保存

が厳しく、保存に力を入れ

<p

問 老朽化住宅の撤去について、今年度の実施状況と今後の取組みは。また、所有者不明の老朽化住宅の撤去についての考え方。

住環境整備

所有者不明住宅の撤去は 対応法令整備へ指針まち



宮川 德光 議員

答 金子 まちづくり課長

対象となる老朽住宅は、1年以上空き家で、抵当権、賃借権が設定されていないなど、一定の条件がある。補助金額は除去工事費の10分の8で、上限額が100万円。

本年度の申請は21件あり、職員が老朽度などで評点付けをし、交付を決定している。なお、予算是上限額の10戸分、1千万円を計上している。

平成24年度からの当事業は、年々申し込みが増加しており、来年度も今年度同様かそれ以上の予算を検討したい。

答 大西 町長

所有者が不明の場合、

町が個人の資産にどこまで踏み込めるか明確な答弁ができる段階ではない。

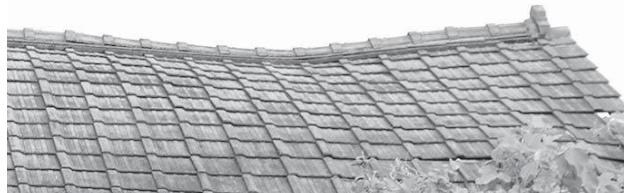
これまで、この問題を語るときには、所有者の

権利の擁護に重きを置かれていたが、今回の枠組みでは、その所有者不明

であるがゆえのさまざまな支障への対応するため、こととなる。

これは国もロードマップを示しており、所有者不明土地問題の枠組みが出てきた結果で特措法ができて、それに関連法案が続いているが、それでゴールではないとしている。

これらにより、指針などが法令的に示されたら、町も所有者不明の土地についての線引きができる



老朽化し、たわんだ空家の屋根



地籍調査

認証遅延の解消へ 対策は 1名増員し 6名体制で

答 宮川 総務課長

地籍調査は、大方地区では平成16年度から事業を開始し、各地域で現地調査を進めて来た。

しかし、近年、津波浸水予想区域を中心に被災後の復興や、まちづくり計

画の基礎資料に資する目的で、現地調査の推進を優先して取り組んできたことで、並行する地権者の同意を得る作業に多大な時間が必要となり遅れが生じた。このため、平成22年度の現地調査分からの認証作業が未完了で認証遅延の状態となり、事業効果が発揮できていない状況となっている。

対策として、今年度は、1名増員をし、6名体制として現地調査の推進と認証遅延の解消に向けて取り組みを強化している。

問 地籍調査については、

平成22年度より現地調査を実施した地域の大部分

が認証遅延となつており、これの解消が大きな課題とのことだった。

この認証遅延の原因と問題点、及び対策は。

地籍調査で打たれた境界杭。小さいながらも大きな意味を持って立っている

避難タワー最上階の整備を

環境整備は必要と考える

【問】避難場所の整備について、地区からの要望は、これまでにどのくらいありますか。

これまでにどのくらいありますか。



あさの 浅野 修一 議員

答 德廣 情報防災課長

基のタワーについては、いずれも屋根を有した施設となつておらず、一定の風雨は防げるようになつていて。だが、自然高台の一時避難場所については、できていない。昨年度は、避難所の環境整備事業により避難所における整備

【問】避難タワーの整備で、一時避難場所としての最上階の整備が必要はでないか。

も進めてきた。タワーを含めて一時避難場所は一時的とはいえ、その環境整備は必要だと考えており、検討を始めていきた

【問】夏や冬の厳しい気象状況の折を想定し、その対策、対応の検討はできなか

【答】徳廣 情報防災課長

一時避難場所に関する地区要望については、今年度、避難小屋の整備や倉庫の設置等、7地区8カ所の要望があつた。補助事業で対応できるものについては、今年度の予算の範囲で整備していきたいと考えている。

【問】倒壊の危険性のあるブロック塀の現時点での改修率は、また、その推進方策としてエリア改修はできないか。

【答】徳廣 情報防災課長

昨年までの黒潮町ブロック塀等対策推進事業による補助金交付件数は72件。ただ、危険とされるブロック塀の数は、現状では把握できており、改修率の算定は困難な状況。エリアや路線を絞り、重点的な取り組みの検討

【問】近年、異常気象による線状降水帯と呼ばれる局地的な豪雨で、全国各地で大規模な水害が頻発している。町内の河川には葦(よし)等の雑草が大繁殖しており、水害の要因と成りかねない。早期の排除、整備が必要だ。

【答】金子 まちづくり課長

どういったものが有効で優先順位が高いのかを協議、話し合いをしながら、整備は進めなければならないと思っている。

孤立した所もあった。葦等の雑草や堆積土(たいせきど)については、毎年、各地域から取り除きの要請が挙がつていて、町内5カ所の除去を行なつていただいた。

今後も、町管理は勿論、県管理についても要望を行ない、対応していく。



ヨシや雑草が大繁殖した河川。すぐそばにはビニールハウスが(蟻川)

【その他質問】
・消費税増税に伴う町の対応、対策について

ゴミ出し困難者への対策を

収集場所の増設等支援する



みやち ようこ
宮地 葉子 議員

問 誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしたいと思う。しかし高齢化が進み、ゴミ出しが困難になつて困っている住民が増えている。今年の3月議会でもこの問題を質問し、行政も対策を出してくれたが、現状に追いついていないよう思う。自分で出しやすくなる対策は。

提起したが、地域負担も伴うため総会等で予算を話し合う必要があり、実現は来年以降になる。

加えてゴミ出し時間の延長も提起したが、これも様々な状況にある地域住民の合意が必要で、時間がかけて決めることが大事であり、実現はまだ先になる。

問 9月の全町避難訓練で、浜の宮地区は人形を使つて心臓マッサージを参加者全員で体験し、大変好評だつた。

今年も全国では豪雨、土砂災害や台風等の予想外の被害があつたが、今後これらの災害は、いつでもどこでも起きる可能性があり、日頃の備えが求められる。町の対策はどうか。

また、今年の暑さは異常だったが、避難所にもなつてゐる体育館に工ア

コン設置が急がれる。国
の補助金制度を利用し、
早急な対応を求める。
そして、大阪北部地震
では通学途中でブロック
塀が倒れ、児童一人が亡
くなっている。町内の学
校施設で危険なブロック
塀があれば、子どもたち
の安全をまもるために早
急な対応が必要だが、ど
うか。

が確立されておらず、地域ごとの特性を把握した上で、地域の声を聞きながら、必要となる対策を進めます。今年度は、かきせ川流域をモデル地域とし、ワークショップを開催している。他の地区へも随時広げていきたい。

議会だより くわく 2018.11.1

り住民が生活する上では
大切だと思う。モデル地
として考へておられると思う
が、どうか。

区等を設け一歩前に進めながら、各種団体やふれあいサロンなどでも提起し、現状や意見等を聞いて欲しい。今現在困つてない住民でも、「ゴミ問題はいづれは自分のこと

答 尾崎 税務・住民課長

モデル地区は決めていくつもり。また、ふれあいサロン等でも話し合いを行い、一歩前に進めたい。

災害対策

豪雨・土砂・地震の備えは

地域の特性と住民の声で



心臓マッサージ訓練

いる住民が増えている
今年の3月議会でもこの
問題を質問し、行政も対
策を出してくれたが、現
状に追いついていないよ
うに思う。自分で出しや
すくなる対策は。

延長も想起したが、これも様々な状況にある地域住民の合意が必要で、時間かけて決めることが大事であり、実現はまだ先になる。

今年も全国では豪雨
土砂災害や台風等の予想
外の被害があつたが、今
後これらの災害は、いつ
でもどこでも起きる可能
性があり、日頃の備えが
求められる。町の対策は

塘が倒れ、児童一人が亡くなっている。町内の学校施設で危険なブロック塀があれば、子どもたちの安全をまもるために早急な対応が必要だが、どうか。

が確立されておらず、地域ごとの特性を把握した上で、地域の声を聞きながら、必要となる対策を進めます。今年度は、かきせ川流域をモデル地域とし、ワークショップを開催し

置は費用の問題もあり、
今は考えていない。

答 尾崎 稅務・住民課長
黒潮町の現状は住民の
5分の2が高齢者のみの

■ 助けあう「お互い様」の考え方を町全体で育てていく共助も必要で、このことは防災にもつなが

また、今年の暑さは異常だったが、避難所にもなっている体育館にエア

答 津波のようないかに明確な対応
豪雨、土砂災害は地震、
徳廣情報防災課長

ている。他の地区へも随時広げていきたい。

今年中に、佐賀小学校、佐賀中学校は来年度に行い
たい。

答毛奇說務主民果義

未来のまちづくりの計画を構想を描いてみたい



さかもと 坂本 あや 議員

問 防災や特に減災についての施策として、将来のまちづくり計画を今、考えておくべき時期にきてると思う。町長の考え方を伺う。

答 大西町長

大規模災害を想定した際に、行政の公助の限界を痛感する。いかに自助、共助、公助の最大化を図るか、これがテーマだ。避難行動を開始するといふのは容易なことではないが、住民の皆さんがないが、

地域コミュニティーの希薄化が叫ばれる中、黒潮町にはまだまだ誇るべき地域のつながりが残っている。このつながりこそが黒潮町そのものであり、まちづくりの基軸。

併せて防災減災にはハード整備を持つて備えるということも大変重要で、その時に、いかに人命が確保されるかに主軸を置き、避難道路、一次避難場所の整備を進めてきたが、今後は助かつた命をどうつながらの取り組みを強化していく。これまで、各

地域コミュニティーの希薄化が叫ばれる中、黒潮町にはまだまだ誇るべき地域のつながりが残っている。このつながりこそが黒潮町そのものであり、まちづくりの基軸。

30年内に大地震に見舞まわれる確率は、年々増している。被災し復興するに大きな課題となる住宅問題を今から考えておくことが、将来の減災につながる。

そのための宅地計画は単独では難しいが、道路関連事業として佐賀地区法でこの事業に事前宅地化の事業を上乗せできなかっただけで、この事業に事前宅地化の事業を上乗せできないかを考えたい。ただ、被災後では復興事業としての交付税100%措置出来るものが、事前にとなれば負担をしなければならず、上乗せ事業分についての措置の検討が要る。

今後は、高規格道路の事業残土処理が出ることが想定されている。これまで盛土構造は宅地化できないとの議論で止まっているが、何らかの方



国道56号大方改良事業に伴い出来た城山団地

答 大西町長

地区から要望が多かった

一次避難場所の環境整備も可能な限りの整備を進めたい。

大規模な防災減災イン

フラの整備は、国を挙げて防災が呼ばれる中、必

ずしも制度的、財政的に担保されておらず、恒常的防災対策の予算措置

がない。本町にとつては、選択肢は限定的だが、引

き続き国に要望を挙げて

いく。

会合等で話される他者への配慮が、自身の避難行動のきっかけとなり得るなら、自分の命を守ることにもつながり、それが黒潮町の防災の進むべき方向性であり、まちづくりの姿だと思う。

地域コミュニティーの希薄化が叫ばれる中、黒潮町にはまだまだ誇るべき地域のつながりが残っている。このつながりこそが黒潮町そのものであり、まちづくりの基軸。

今後は、高規格道路の事業残土処理が出ることが想定されている。これまで盛土構造は宅地化の転用事務手続きの簡素化で止まっているので、今年も諦めずにやっていただきたい。

今後は、高規格道路の事業残土処理が出ることが想定されている。これまで盛土構造は宅地化の転用事務手続きの簡素化で止まっているので、今年も諦めずにやっていただきたい。

土地利用の協定が結べたところなどの測量設計をやらせていただければ、復旧復興のスピードが格段に違ってくる。

また、事前で被災後の事業に伴う周辺整備事業で有利な整備ができるのであれば、そこで浮いた財源を住宅用地の開発に向けるとか、総合的にとらえながら、まちづくりの構想を始めてみたいと思う。



もり はるし 森 治史 議員

町道整備

高齢者の日常に安全を

森間線の舗装 今年度中に

問 以前、田野浦部落の住民要望として拡張工事と舗装工事の質問をし、対応策として「町道森間線についてでは、補修は出来ない」と答弁があつた。

坂の下西間線は六の神
修だけはしているが、既に
に次の穴が開いている。

等を手押し車で通つており、穴に入つて怪我をすれば行政の責任が問われないか。日常生活の安全面からも飯積線のように全面舗装すべきだと思う。町内全体に対する予算額が少ない状況で、一つでも多くの路線を整備するためには一般財源からの持ち出しをする等、現状予算への上乗せの考えはないか。

答 金子 まちづくり課長
平成28年12月議会で質問を受け、地元と協議をして29年度に大方地域5路線を実施した中で、飯積線は道路下の暗渠、横

断排水路も同時に工事が
必要なため優先的に実施
した。

坂の下西間線は今年度の地域要望で出されてい
るが、地域要望の順位、路
面状況を見ながら対応す
る。予算の上乗せについて
ては現在のところ考えて
いない。



町道森間線の現状



健康診斷

受診票再配布 経費の無駄

また、委託業者のオペレーターから、健康について何か心配な点などないかと聞かれたが、個人の健診内容は一切漏らしていいのか。

問 入野在住の方より町の胸部レントゲンを6月27日に再度受診したが、同月27日に再度受診票が送られてきたので、役場に電話をかけ担当者に済ませたことを伝えた。手違いで二度送ったとの説明と断りをもらつたが、心からとは感じられなかつたと聞いた。これは二重経費で住民は無駄遣いだと言つている。

郵送料など少額でも住民の大事なお金という認識を持つっているのか。

特定健診の問診が届いているかと私も確認の電話が業務委託先（JMC社）からあつたが、担当課は毎年の受診者については把握しているはず。最初から全世帯対象の受診確認の委託は必要ないのではないか。

答 川村 健康福祉課長
早咲地区の受診された方（61世帯79人）に再送付した。原因は、受診者を除くシステムへの登録作業手順での人為的ミスだつた。

迷惑をかけた住民への
断りの対応が一番重要と
考えている。郵便代等諸
経費は少額とは思ってい
ない。

体制の充実を図ることの確認が必要であり、こう

いうとか二度と起こらないように努める。

【その他の質問】

・町有財産登記について

- ・教育について
- ・旧包括支援センター跡

ゴミ出し困難者への対応は ゴミ二ティー活動に支援

おなが まさひろ
小永 正裕 議員

答 尾崎 税務・住民課長

ゴミ出しの課題1つ目

は、町の全世帯の内約5

分の2が高齢者の世帯で、
うち約4分の1が高齢者の
単身世帯で年々増加し

ている。

また、介護保険制度の
要介護、要支援認定者は、

平成28年度814人、29

年度857人と増加して

いる。

高齢者ののみの世帯も増

加傾向で、老老介護の状

況が深刻になっている。

問 ゴミ出し困難者の現状をどう把握しているのか。そういう方々への支援の用意はあるか。あとすれば、その具体的な内容を問う。

他の自治体では、ゴミステーションの場所が近くにない場合、通り掛かりのゴミ収集車に手を上げると、そこで収集してくれるなど柔軟に対応している事実もある。様々な支援の方法が考えられるが今後の取り組みを問う。

ーションの増設やゴミ出し時間の弾力化が必要なことが分かった。

3点目は、地域の自助、共助が機能しないことに

よるもので、地区での組織化への支援が必要と判断した。

今年度は、ゴミステー

ションを増設し、次年度

以降は高齢者や障がい者

の方を対象に、地区内の

支援組織に対して、リヤ

カーとか小車などの運搬

資機材の購入費用の支援

を行う。

また、時期は未定だが、

自助、共助で対応できな

い高齢者等に対して、声

掛けや見守りなど、福祉的施策の支援を検討する。

また、時期は未定だが、
自助、共助で対応できな
い高齢者等に対して、声
掛けや見守りなど、福祉

m以上の津波が何回も襲
来すると、この土盛工法
のルートでは、道はまと
もに残らないと推測でき
る。山側のルートを要望
すべきだ。

また、入野松原に、高い
土盛工事で津波を減衰さ
せる建議をしたとのこと
だが、どうなったのか。

土盛工法だが、完成した
場合、入野、田の口、浮鞭
下前の住民の安否は、心配ないと
考えていいのか。

国交省に「避難タワー
と聞いたとき、「調べてか
ら説明する」との答弁だ
ったが、1年たっても説
明はない。

と聞いている。
工法について国からは、
想定される震度に耐える
構造で設置すると聞いて

いる。今、ルートがどう
こうという段階ではない
が、どこを通つても盛土

工法のないルートとい
うのはもうあり得ない。ど

うかがリスクを背負わ
なければならないのは当然
あるべきことだと思つて

いる。

また、松原の中の高盛
土の工法については、そ
の後の進ちよくはない現
状。

こかがリスクを背負わ
なければならぬのは当然
あるべきことだと思つて

いる。

こかがリスクを背負わ
なければならぬのは当然
あるべきことだと思つて

問 高規格道路 入野、田の口
地区の被害は 国土交通省が
説明予定

答 大西 町長

3地区の住民の総人数
は、合計4457人。

地区への津波の影響や

災害については、国土交

通省が平成24年度に高知

県が行つた津波浸水予測

を基に、高規格道路など

の条件を追加して津波浸
水高さの確認をしている



ゴミステーション

問 入野、田の口、鞭下前
地区の住民数は何人か。

ステーションが遠い、収集時間に間に合わないなどの意見から、ゴミステ

が進むにつれ支援が必要な世帯が増加した。ゴミステーションが遠い、収集時間が間に合わないなどの意見から、ゴミステ

現地に行きました！

産業建設厚生常任委員会
委員長 藤本 岩義

町内各地区よりの要望の内、高知県が所管するものについて、毎年、この時期に産業建設厚生常任委員会の議員と職員が、県の担当者と共に要望箇所に出向き、現況の説明や、より一層の働きかけを行っています。

今年は、8月1日（水）に、雨空の下、町内76件ほどの要望箇所の内、新規や緊急性の高い要望箇所11カ所ほどの現地に行きました。当曰は朝方に雨が降り、排水関係の要望などは、より現状が分かる視察となりました。



▲河川の堆積土取り除き（御坊畑）



▲先日の雨で崩落があった県道中土佐佐賀線。
急遽、現地で要望を（佐賀上灘山）



▲河川の堆積土取り除き（伊与喜）



▲宮木砂防流路工の土砂除去(市野々川)



▲県道秋丸佐賀線の舗装の修理（荷稻）

▶どしゃ降りの雨の中、
天気予報を信じて現場へ

住民の声

不破原地区をお訪ねしました！

不破原地区は、佐賀地域の中央部、国道56号周辺に位置し、地区長によると戸数は25戸、人口53人の小集落で、その内65歳以上の方が16人おいでとのことです。

当地区では、毎年の主要行事として、4月第一日曜日に地区の女性部の手料理を始めとする住民手作りの「お花見」を兼ねた「敬老祝賀会」を開

催し、お祝いと親睦を図っているとのことでした。当地区的主な産業は、山間部に位置しているためか水稻栽培が主の農業が多いほか、菌茸栽培や建設業者、会社員などとのことです。

9月下旬にお伺いしましたが、彼岸花がのどかな風景に彩りを添える中、沢山の温かい笑顔にも出会い、元気を頂きました。

地域を支える女性たち
今日は手料理で大活躍です



地域を見守る

「熊野神社」



不破原地区の遠景(上3枚)



起立した大塚区長のご挨拶で地区主催の「お花見」兼「敬老祝賀会」のスタートです(上2枚、H30年4月1日、不破原集会所)

当地区は、高齢化が進んだ小規模な集落ですが、高校生までの子ども達が10人ほどいて元気な笑顔に地域は活力を頂いています。

また、近年、地区内に空き家が多くなり、そ

入居し、地区の行事にも積極的に参加するなど、多いに地域を盛り上げて頂いています。

大塚一福区長の声

議会や行政への一言ですが、昔は盛んであつた水稻栽培も高齢化が進む中、耕作放棄地が増えています。管理に苦慮している現状もあり、これらの対策として町のホームページに入居者募集を掲載しています。

現在、5世帯の家族が

課題解決により一層の取

同	同	同	議会広報常任委員会
委員長	副委員長	委員	富川 德光
坂本 浩一	浅野 修一	小松 孝年	藤本 岩義
宮地 葉子	あや		

「備えあればうれしいな」
(藤本岩義)

今年は国内外で大きな災害が発生しました。大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号災害、震度7を記録した北海道地震など暇がありません。15年ほど前の、あるお母さんと小学生の会話を思い出しました。

「今日、勉強は何したの」「ことわざなど」「なかに一つ言って」「子どもはまじめな顔で『備えあればうれしいな』お母さんは笑いながら話していました。

避難タワーや避難道の整備が今年で計画はほぼ完了。今後は避難後の対策が重要です。議会も執行部も、町民の皆さんとも協力しながら進める必要があります。

「備えあればうれしいな」

編集後記